

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	和歌山大学
設置者名	国立大学法人和歌山大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
教育学部	学校教育教員養成課程	夜・通信	13	0	0	13	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		0	0	13	13	
システム工学部	システム工学科	夜・通信		0	0	13	13	
観光学部	観光学科	夜・通信		0	0	13	13	
社会インフォマティクス学環		夜・通信		0	0	13	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

○大学のホームページ：「シラバスについて／実務経験のある教員等による授業科目について」において公表 https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/syllabus.html
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 ー
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	和歌山大学
設置者名	国立大学法人和歌山大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

○大学のホームページ：「役職職員一覧」において公表
https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/public_org/executive.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	有限会社明日香コンピュータ	2025.4.1- 2027.3.31	産学連携（研究）担当
常勤	兵庫教育大学副学長	2025.4.1- 2027.3.31	財務、施設、ガバナンス 強化担当（兼副学長）
非常勤	南海電気鉄道株式会社グループ 事業部長	2025.4.1- 2027.3.31	産学連携（教育）担当
（備考）			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	和歌山大学
設置者名	国立大学法人和歌山大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 和歌山大学成績評価方針において、授業の目的、到達目標、授業計画及び成績評価の方法・基準のシラバスへの明記など、教員による授業評価の基本方針を定めている。次年度の授業時間が決定した1月から2月に授業担当教員がシラバスを作成、2月から3月に各部局において内容を確認のうえ、3月下旬から4月にホームページで公表している。 学生には、履修手引等により3月下旬から4月のガイダンス等において周知・指導している。	
授業計画書の公表方法	○大学のホームページ：「シラバスについて／実務経験のある教員等による授業科目について」において公表 https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/syllabus.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 和歌山大学成績評価方針に基づき、授業時間外に行う事前・事後学修についても、シラバスに記載された到達目標の達成度に応じて精緻な評価を行うことを定め、これを実施している。 また、各授業科目における成績評価の結果を検証し、次回以降の授業改善に活用することとしている。 さらに、成績評価に対する異議申立制度を設け、学修成績に関する疑義に対応するとともに、評価に用いた答案等の保管についても明確に定め、適切に運用している。 ○大学のホームページ：「和歌山大学成績評価方針」 https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/authorization5.html ○大学のホームページ：「和歌山大学成績評価及び単位修得並びにGPA制度に関する規程」 https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/GPA_CAP.html	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 和歌山大学成績評価及び単位修得並びにGPA制度に関する規程を定め、大学のホームページで公表している。また、戦略情報室が作成した成績評価分布のデータに基づき、各学部や担当理事等が分析・検証を行い、さらに教授会等を通じてその結果を授業担当教員にフィードバックし、授業改善に努めている。 ○GPAの考え方 ・GP = (素点-55) ÷ 10 ※GP値が0.5未満の場合(素点が59点以下)はGP値を0.0とする。 ・学期GPA = 当該学期に履修登録した各科目の(GP×単位数)の合計÷当該学期の成績評価を受けた全科目の単位数合計 ※GPAは小数点以下第3位を四捨五入し、第2位までを表示する。 ・通算GPA = 入学時から履修登録した各科目の(GP×単位数)の合計÷入学時から成績評価を受けた全科目の単位数合計 ※GPAは小数第3位を四捨五入し、第2位までを表示する。 ※不合格科目を再履修して成績評価を受けた場合、再履修前の不合格評価は通算GPAに算入しない。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	○大学のホームページ：「成績評価・GPA制度・CAP制について」において公表 https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/GPA_CAP.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 全学及び各部局においてディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを定め、大学のホームページで公表するとともに、これらに基づいて授業科目を適切に開設し、シラバスに各授業科目とディプロマ・ポリシーの関係を明記している。 また、卒業の認定にあたっては、学則及び学部規則に基づき、教授会において必要な学修を修めたことを認定している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	○大学のホームページ：「教育情報の公表 和歌山大学ディプロマ・ポリシー」において公表 https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	和歌山大学
設置者名	国立大学法人和歌山大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/fin/financial.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/fin/financial.html
財産目録	—
事業報告書	https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/fin/financial.html
監事による監査報告(書)	https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/con.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 国立大学法人和歌山大学第四期中期計画 対象年度: 令和4年度～令和9年度)
公表方法: https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/business/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/con.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/con.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 教育学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/) (概要) 教育学部は、人間と教育に関する深い理解と、科学・芸術・文化に関する専門的知識にもとづき、教育実践力を高めることで、次代を担う子どもたちの成長と発達を支援していくことのできる高度な資質・能力をもった教員の養成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/edu/facultyofeducation/careerpath.html) (概要) 和歌山大学教育学部のディプロマ・ポリシー 和歌山大学の目的及び使命並びに学位授与の方針に則り、教育学部が定めた教育目的に基づいて編成した教育課程を通して、「地域とともに学びの未来を拓く教師」として次の目標に到達していると認められる者に学士（教育学）の学位を授与する。 - 幅広い教養と分野横断的な学力 ・学術文化の基盤となる幅広い学術的教養を身につけている。 ・論理的に考える力や情報化社会に対応する実践的な力を身につけている。 - 専門的知識や技能 ・学校教育において教育活動を行うための基盤となる専門的知識や技能を身につけている。 ・幼児期から青年期に至る子どもの発達を見通し、個々の多様な教育的ニーズを理解し支援できる。 - 課題解決力と自己学修能力 ・子どもたちに関わる専門職として、生涯にわたって学び続ける基盤を有している。 - 協働性とコミュニケーション能力 ・基本的人権を擁護し、他者と関わりながら教育活動を行うための基盤を有している。 - 地域への関心と国際的視点 ・地域の特性を理解するための基盤となる知識や技能を身につけている。 ・国際理解・異文化理解の能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/edu/facultyofeducation/careerpath.html) (概要) 【教育課程編成の視点と内容】 「地域とともに学びの未来を拓く教師」として求められる学術的教養及び専門的知識を身につけるため、体系的・系統的な教育課程を設定する。 詳しくは、次のとおりとする。 ・教育活動を行うための基盤となる学術的教養を獲得するために、教養教育科目を設定する。 ・教養教育科目は、教養科目（基幹）、教養科目（実践）に分類する。 ・教育活動を行うための基盤となる専門的知識や技能を獲得するために、体系的・系統的な専門教育科目を設定する。 ・専門教育科目は、コース共通科目、教育職員免許状の取得に係る教職に関する科目・教科に関する科目・特別支援教育に関する科目、分野・領域の学びを深めるための専門科目に分類する。 - 基本的人権を擁護し、他者と関わりながら教育活動を行うための基盤を獲得するために、学校等において教育実践ができる教育課程を設定する。 【教育課程展開の授業形態・方法】 - 授業科目ごとに到達目標を設定する。 - 到達目標に向かって学修を進められるように、講義、演習、実験、実習、実技又はこれらを組み合わせた授業を行う。

3. 各科目では、その態様に応じて予習・復習・課題等により、授業時間外学修を課す。 4. 主体的・対話的で深い学びの機会を充実させる。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/admission-policy/edu.html)
(概要) 教育学部では、卒業後に学校教員への就職を志望する、次の各要素を備えた人物を求める。 1. 知識・技能 ・これまでの学びを通して大学入学後の専門的知識を学ぶための基礎となる知識・技能を有する人 2. 思考力・判断力・表現力 ・課題解決に主体的に取り組むための基礎となる思考力・判断力・表現力を有する人 3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 ・多様で広い知的関心を持ち、他者と関わって学ぼうとする意欲や態度を有する人 ・身につけた知識や技能を活用し、課題解決に取り組む意欲や態度を有する人

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経済学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/) (概要) 経済学部は、広い視野と専門領域に応じた基礎学力及び経済社会を体系的に理解できる能力をもち、経済社会のさまざまな問題を真摯に受け止め、的確に判断し創造的・実践的に対応できる人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/eco/faculty/faculty_curriculum/index.html) (概要) 和歌山大学の目的及び使命並びに学位授与の方針に則り、経済学部が定めた教育目的に基づいて編成した教育課程を通して、次の目標に到達していると認められる者に学士（経済学）の学位を授与する。 - 幅広い教養と分野横断的な学力 - 幅広い教養を基盤として、人間、社会、自然を捉える能力を身につけている。 - 論理的思考力と情報リテラシー及び初歩的な数的処理能力を身につけている。 - 専門的知識や技能 - 経済学における基礎学力、及び経済学を中心とする社会科学の専門知識に基づいて、経済社会を理解する能力を身につけている。 - 課題解決指向の分野横断的な専門能力を身につけている。 - 課題解決力と自己学修能力 - 獲得した知識、技能、能力に加え、創造力、思考力、実践力を活用し、経済活動に関する課題を解決する能力を身につけている。 - 社会の変化に対応する人材として、主体的に学び続ける姿勢を身につけている。 - 協働性とコミュニケーション能力 - 社会の様々な主体と対話し、協調して行動する能力を身につけている。 - 地域への関心と国際的視点 - 地域の姿を様々な側面から捉える能力を身につけている。 - 諸外国の状況を把握するための語学力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/eco/faculty/faculty_curriculum/index.html) (概要) 学士（経済学）にかかる学修成果を身につける教育課程を次の方針に基づき編成し実施する。 【教育課程編成の視点と内容】 教養教育科目、連携展開科目及び専門教育科目からなる科目体系の下で、経済学を中心とする社会科学の専門知識を身につけるために、経済学・経営学・会計学・情報学・法学などの複数の専門領域を包摂する複数のプログラムを編成する。 - 教養と分野横断的な学力 幅広い教養を身につけるための教養科目（基幹）、及びグローバルな社会で求められる、言語運用能力や情報処理能力、自律的に心身を維持する能力を身につけるための教養科目（実践）を配置する。 - 専門知識と技能及び課題解決力と自己教育力 次の授業科目を配置する。 - 進路や学修目標を主体的に定め計画できるようになるための導入科目 - 専門知識を学ぶ上で必要となる対話力、表現力、論理的思考力を身につけるための初年次演習科目 - 経済学、統計学の基礎を学ぶ初年次科目 - 経済学を中心とする社会科学の専門知識を学ぶプログラム科目 - 創造力、思考力、実践力を身につける少人数の専門演習科目 このうち、次の授業科目を必修科目とする。

・基礎学力を身につけるための授業科目 ・社会科学の最小限の専門知識を身につけるための授業科目 ・プログラムの骨格となる授業科目 ・課題解決に必要となる種々の能力を身につける少人数の授業科目 また、学修目標に従い履修することが望ましい授業科目を選択必修科目もしくは選択科目とする。 3. 協働する力 実社会で活動するプロジェクト形式の授業科目を配置する。 他者と関わり合いながら種々の能力を身につける授業科目を配置する。 4. 地域の理解と国際的視野 地域社会を学びの場とする授業科目を配置する。 国際的視野の獲得に寄与する外国語運用力を身につけるための授業科目を配置する。 5. 社会を見据えたキャリア教育 社会が求める人材像や自らが目指す人材像について考える授業科目を配置する。 【教育課程展開の授業形態・方法】 1. 授業科目ごとに到達目標を設定する。 2. 到達目標に向かって学修を進められるように、講義、演習、実験、実習、実技又はこれらを組み合わせた授業を行う。 3. 各科目では、その態様に応じて予習・復習・課題等により、授業時間外学修を課す。 4. 授業の内外において、学生が関係主体と対話し、ともに協力しながら、主体的に学び、創造し、実践する機会を充実させる。 5. 学生の主体性を育むために、少人数クラスの担当教員及びキャリア教育担当教員のサポートの下で、学生自身に学修目標を設定させ、履修計画を立案させる。 6. 少人数クラスの担当教員を中心として学修の経過を確認する。	入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/admission-policy/eco.html)
(概要) これまでの学びの機会を通して、次の知識・技能、能力、態度を身につけようとしてきた人を求める。 1. 知識・技能 ・社会の複合的な課題を発見・理解するための幅広い基礎的知識を有する人 2. 思考力・判断力・表現力 ・認識した課題を分析・解決するための思考力・判断力・表現力を有する人 3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 ・解に至る道筋を粘り強く考え続ける能力を有する人 ・課題解決の実践にあたり、多様な人々と対話し、協働するためのコミュニケーション能力と意欲を有する人	

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 システム工学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/) (概要) システム工学部は、その理念「複数の領域の知識を身につけ、その知識を自ら活用することで、創造性を発揮し、様々な人とのコミュニケーションを通して、課題の探求と問題解決を行い、自然や人間社会に貢献できる専門的技術者・研究者を養成する」に即して、分野を横断する複数領域の知識を身につけ、その知識を自ら活用することにより、広い視野から時代の要請に応え、課題解決のできる研究者や技術者を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/sys/8major/curriculum/index.html) (概要) 和歌山大学の目的及び使命並びに学位授与の方針に則り、システム工学部が定めた教育目的に基づいて編成した教育課程を通して、次の目標に到達していると認められる者に学士(工学)の学位を授与する。 - 幅広い教養と分野横断的な学力 ・自然環境、社会、人間、文化に対する幅広い知識を身につけている。 ・時代や社会が求める実践的な力を身につけている。 - 専門的知識や技能 ・情報技術の基礎及び工学の専門分野において必要な知識・技能を身につけている。 ・工学における複数分野を横断し俯瞰する専門的な知識・技能を身につけている。 - 課題解決力と自己学修能力 ・技術者に必要な情報技術及び専門的な知識・技能を活かして、課題を解決する能力を身につけている。 ・専門的思考力及び技術力を高めるため、主体的な学修により学び続ける姿勢を身につけている。 - 協働性とコミュニケーション能力 ・技術者として、課題の解決に向けて他者と協働して取り組む能力を身につけている。 ・自らの思考過程・作業過程・成果及びそれらの妥当性を他者に論理的に伝えるコミュニケーション能力を身につけている。 - 地域への関心と国際的視点 ・地域の課題に対して関心を持ち、その課題の解決に寄与する能力を身につけている。 ・広範な情報を収集し、正しく分析することができる語学力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/sys/8major/curriculum/index.html) (概要) 学士(工学)にかかる学修成果を身につける教育課程を次の方針に基づき編成し実施する。 【教育課程編成の視点と内容】 1. 自然環境、社会、人間、文化に対する幅広い知識を修得させるために教養教育科目を設定する。 2. 工学系技術者としての専門性を培い、複数分野にまたがる応用可能な専門知識や技能、協働性とコミュニケーション能力を修得させるために専門教育科目を設定する。 ・広範な視野を必要とするシステム工学の学修の準備として工学基礎科目を設定する。 ・情報技術に関する基礎知識と技能を修得させるために情報基礎科目を設定する。 ・各専門分野に必要な情報関連技術を修得させるために情報応用科目を設定する。 ・専門知識・技能を修得させるため、『応用理工学』『環境デザイン学』『情報学』の3領域に、「ロボティクス」「電子物理工学」「化学」「環境科学」「建築・ランドスケープ」「情報システムデザイン」「ネットワークコンピューティング」「クロスリアリティ・情報デザイン」の8の専門教育課程(メジャー)を設置し、それぞれに科目を設定する。主たる専門知識・技能を修得させるために第1メジャーを、分野を横断する専門知識・技能を修得させるために第2メジャーを選択させる。

3. 社会適応力を養成、職業意識を啓発させるためにフィールドワークやインターンシップを設定する。
4. 複数のメジャーの学修により身につけた思考過程や作業過程及び得られた結論の妥当性を論理的に説明する能力やコミュニケーション能力を修得させるために卒業研究を課す。

【教育課程展開の授業形態・方法】

1. 産業を支える基本的な技術分野の基礎的学力を教育するための講義を中心とした授業を行う。
2. 修得した知識と方法を活用・応用する力、考える力を強化するための演習を中心とした授業を行う。
3. 各技術分野で修得すべき技能や安全についての知識を定着させるための実験を中心とした授業を行う。
4. 時代と社会が求める人材像について体験するための実習を中心とした授業を行う。
5. 課題の把握から解決する力とその過程を記述し表現する力を育成するためのゼミナール形式の授業を行う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/admission-policy/sys.html>)

(概要)

システム工学部において入学者に求める知識・技能、能力、態度は次のとおりである。

1. 知識・技能
 - ・これまでの学びを通して大学入学後の複数の科学・技術領域を見通し、情報教育を基盤として複合的に工学系分野の専門を学ぶための基礎となる学力・技能、特に理数系における確かな知識を有する人
2. 思考力・判断力・表現力
 - ・課題を解決するための思考力・判断力を有する人
 - ・意見や考えを他者や社会に分かりやすく伝えるための表現力を有する人
3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
 - ・他者を尊重し、その意見を受け入れる柔軟性、協調性を有する人
 - ・何事にも好奇心・探求心を持ち、創造力を身につけようとする真摯な態度を有する人

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 観光学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/) (概要) 観光学部は、「観光経営」・「地域再生」・「観光文化」という3つの基本領域（コース）の相互関係として観光学の学問体系の全体像を認識しつつ、このうちのいずれかの領域に主たる専門性（より深い教養）を発揮できる人材の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/faculty/faculty_curriculum/index.html) (概要) 和歌山大学の目的及び使命並びに学位授与の方針に則り、観光学部が定めた教育目的に基づいて編成した教育課程を通して、次の目標に到達していると認められる者に学士（観光学）の学位を授与する。 - 幅広い教養と分野横断的な学力 - 多様な価値観が折り重なる現代社会に対し、豊かな人間性をもって臨むことのできる幅広い教養と普遍的な思考力を身につけている。 - 専門的知識や技能 - 観光に関する多様な課題を、学際的な見地から専門的に考察できる多角的な思考力を身につけている。 - 課題解決力と自己学修能力 - 修得した知識・技能をもとに、観光学を理論的かつ実践的に探求し創造的に課題解決できる能力並びに主体的な行動力を身につけている。 - 協働性とコミュニケーション能力 - 他者との関係性において観光現象に真摯に向きあうことのできる柔軟な協働力と世界観光倫理憲章（GCET）に基づく倫理観を身につけている。 - 地域への関心と国際的視点 - 観光を通じた地域づくりや国際的に展開される観光現象を把握できる広範な理解力を身につけている。 ※観光現象・・・観光に関係する様々な社会現象のこと。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/faculty/faculty_curriculum/index.html) (概要) 学士（観光学）にかかる学修成果を身につける教育課程を次の方針に基づき編成し実施する。 【教育課程編成の視点と内容】 - 幅広い教養と普遍的に思考する力を培うため、教養教育科目を設置する。 - 多角的に思考する力を培うため、専門教育科目に専門導入科目・専門基礎科目・専門科目を設置し、また、観光学の専門教育とそれを取り巻く諸領域を架橋する専門接続科目を設置する。加えて、専門科目に観光学の学際性を反映する観光経営・地域再生・観光文化の3つのコース科目及び応用科目を設置する。 - 主体的に行動し課題解決する力及び必要とされる倫理観を培うため、基礎演習・プロジェクト演習・専門演習を設置する。 - 柔軟に協働する力を培うため、プロデュース科目・プロジェクト演習・基礎自主演習・プロジェクト自主演習を設置する。 - 広範に理解する力を培うため、日本文化科目・外国語科目・国際科目を設置する。また、実地での活動を取り入れた基礎自主演習・プロジェクト自主演習を設置する。加えて、専門基礎科目と専門科目を英語で履修できるグローバル・プログラムを設置する。 - 培われた力を卒業後に広く社会で発揮するためのキャリア科目を設置する。 【教育課程展開の授業形態・方法】 - 授業科目ごとに設定する到達目標に向かって学修を進められるよう、講義、演習、実験、実習、

実技又はこれらを組み合わせた授業を行う。 2. 各学年に少人数教育の演習科目を配置するほか、主体的・対話的で深い学びの機会を充実させる。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/admission-policy/tou.html)
(概要) 観光学部において入学者に求める知識・技能、能力、態度は次のとおりである。 1. 知識・技能 ・観光学部における専門分野の学修に必要な基礎学力を有する人 2. 思考力・判断力・表現力 ・主体的かつ積極的に課題に挑戦するための基礎的な思考力・判断力・表現力を有する人 3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 ・新しいものごとへの好奇心・探究心、多様な文化・歴史・地理・言語や現代の社会情勢に対する幅広い関心を持ち、他者と関わって学ぼうとする意欲や態度を有する人 ・身につけた知識や技能を活用し、主体的かつ創造的に課題解決に取り組む意欲や態度を有する人

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 社会インフォマティクス学環
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/) (概要) 社会インフォマティクス学環は、広い視野と専門領域に応じた基礎学力及び応用力を体系的に理解できる能力をもち、データを利活用して社会の課題解決や地域活性化に貢献できる人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/socinfo/curriculum/index.html) (概要) 和歌山大学の目的及び使命並びに学位授与の方針に則り、社会インフォマティクス学環が定めた教育目的に基づいて編成した教育課程を通して、次の目標に到達していると認められる者に学士(社会情報学)の学位を授与する。 - 幅広い教養と分野横断的な学力 - 幅広い教養と科学的思考力を基盤として、自然、社会、人間、文化を的確に捉えて活動する能力と実社会における多様な活動に適応できる分野横断的な学力を身につけている。 - 専門的知識や技能 - 社会における有用なデータや情報にかかる専門的な知識を身につけている。 - 課題解決力と自己学修能力 - 社会の課題解決を指向した、データや情報の分析能力を身につけている。 - 協働性とコミュニケーション能力 - 主体的にデータや情報を用いた社会の課題解決策を提起し、他者と協働しながらそれを実現していく力を身につけている。 - 地域への関心と国際的視点 - 地域への関心と理解を有し、国際的な視点も兼ね備え、社会の課題を的確に把握する能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/socinfo/curriculum/index.html) (概要) 学士(社会情報学)にかかる学修成果を身につける教育課程を次の方針に基づき編成し実施する。 【教育課程編成の視点と内容】 - 自然、社会、人間、文化を捉えるための基盤となる幅広い教養と普遍的な思考力を身につけるための教養教育科目を設定する。 - データ利活用力を培い、経済学、観光学、工学にまたがる分野横断的な専門知識・技能を身につけるための専門教育科目を設定する。 - 時代と社会が求める企画力・実践力・発信力、他者と対話・協働して課題解決に取り組む能力を身につけるための科目を設定する。 - 主体的に課題に取り組み、自らの考えや成果を論理的に説明する能力を身につけるための卒業研究を課す。 - 地域への関心と理解を深めるための科目や、広範な情報を収集・分析・活用するために必要な外国語運用力を身につける科目を設定する。 【教育課程展開の授業形態・方法】 - 授業科目ごとに到達目標を設定し、講義、演習、実験、実習、実技又はこれらを組み合わせた授業を行う。 - 各学年に少人数教育の演習科目を配置するほか、主体的・対話的で深い学びの機会を充実させる。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/admission-policy/socinfo.html)

(概要)

社会インフォマティクス学環において入学者に求める知識・技能、能力、態度は次のとおりである。

1. 知識・技能
 - ・ 本学での学修に必要となる知識・技能を有する人
2. 思考力・判断力・表現力
 - ・ 課題解決に取り組むための基礎となる思考力・判断力・表現力を有する人
3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
 - ・ 多様で広い知的関心を持ち、他者と関わって、主体的に学ぼうとする意欲や態度を有する人
 - ・ 身につけた知識や技能を活用し、課題解決に取り組む意欲や態度を有する人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	学長 1 人 副学長 5 人	—					6 人
教育学部	—	34 人	14 人	3 人	0 人	0 人	51 人
経済学部	—	19 人	15 人	1 人	0 人	0 人	35 人
システム工学部	—	26 人	22 人	8 人	4 人	0 人	60 人
観光学部	—	14 人	3 人	3 人	2 人	0 人	22 人
社会インフォマティクス学環	—	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人	3 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		156 人					156 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：https://researchers.center.wakayama-u.ac.jp					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教学入試戦略推進本部において、教学に関するF D・S Dを企画・実施しているほか、各学部のF D 委員会においても、各部局の状況に合わせ、独自に活動を行っている。主な活動は以下のとおりである。							
【全学】							
・全学F D 研修の実施（令和5年度「教学マネジメント指針とは何か～学修者本位の観点から教職員が自ら取り組んでいくために～」など計7件）							
【部局】							
・成績評価分布の分析の実施及び検証結果の情報共有							
・学生による授業評価を教員にフィードバック							
・新任教員の授業公開・参観							
・学部F D 研修の実施 など							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育学部	135 人	141 人	104.4%	630 人	675 人	107.1%	0 人	0 人
経済学部	290 人	308 人	106.2%	1190 人	1310 人	110.1%	10 人	7 人
システム工学部	320 人	318 人	99.4%	1245 人	1346 人	108.1%	20 人	12 人
観光学部	115 人	121 人	105.2%	465 人	510 人	109.7%	0 人	0 人
社会インフォマティクス学環	30 人	34 人	113.3%	90 人	105 人	116.7%	0 人	0 人
合計	890 人	922 人	103.6%	3620 人	3946 人	109%	30 人	19 人
（備考） 社会インフォマティクス学環は令和5年度設置のため第1～3学年のみ在学。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
教 育 学 部	164 人 (100%)	7 人 (4%)	146 人 (89%)	11 人 (7%)
経 済 学 部	302 人 (100%)	2 人 (1%)	275 人 (91%)	25 人 (8%)
システム工学部	318 人 (100%)	170 人 (53%)	132 人 (42%)	16 人 (5%)
観 光 学 部	129 人 (100%)	2 人 (2%)	119 人 (92%)	8 人 (6%)
社会インフォマティクス学環	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合 計	913 人 (100%)	180 人 (20%)	667 人 (73%)	66 人 (7%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) ○大学のホームページ:「キャリアセンター 就職・進路実績」にて公表 https://www.wakayama-u.ac.jp/career/record.html				
(備考) 社会インフォマティクス学環は令和5年度設置のため卒業者はいない。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
教 育 学 部	171 人 (100%)	151 人 (88.3%)	12 人 (7%)	3 人 (1.8%)	5 人 (2.9%)
経 済 学 部	306 人 (100%)	257 人 (84%)	29 人 (9.5%)	2 人 (0.7%)	18 人 (5.9%)
システム工学部	332 人 (100%)	263 人 (79.2%)	45 人 (13.6%)	12 人 (3.6%)	12 人 (3.6%)
観 光 学 部	130 人 (100%)	108 人 (83.1%)	10 人 (7.7%)	2 人 (1.5%)	10 人 (7.7%)
社会インフォマティクス学環	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合 計	939 人 (100%)	779 人 (83%)	96 人 (10.2%)	19 人 (2%)	45 人 (4.8%)
(備考) 「その他」は休学により所定の在学期間に達していない者 社会インフォマティクス学環は令和5年度設置のため卒業者はいない。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 和歌山大学成績評価方針に及びシラバス作成のガイドラインの基本方針において、授業の目的、到達目標、授業計画及び成績評価の方法・基準のシラバスへの明記など、教員による授業評価の基本方針を定めており、授業担当教員が作成したシラバスは、部局が内容を確認

の上、大学のホームページで公表している。
 学生には、履修手引等により3月下旬または4月のガイダンス等にて指導している。

○大学のホームページ：「シラバスについて」において公表
<https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/syllabus.html>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

和歌山大学成績評価方針及びシラバス作成のガイドラインの基本方針において、授業時間外で行う事前・事後学習についてもシラバスに具体的に記載することとしており、個々の授業科目における成績評価は、シラバスに記載した到達目標の達成度に応じて、精密な評価を行うと定めて実施している。

全学及び学部・学環においてディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを定めて大学のホームページで公表するとともに、これらに基づいて授業科目を適切に開設している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教 育 学 部	学校教育教員養成課程	132 単位	○有・無	48～56 単位
経 済 学 部	経 済 学 科	124 単位	○有・無	48～60 単位
システム工学部	システム工学科	124 単位	○有・無	48～56 単位
観 光 学 部	観 光 学 科	124 単位	○有・無	36～48 単位
社会インフォマティクス学環		128 単位	○有・無	52～60 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

○キャンパス案内 (バリアフリーマップ含む)

<https://www.wakayama-u.ac.jp/about/c-map.html>

○運動施設、課外活動施設、休息のとれる環境など

https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/

○課外活動の概要 (課外活動一覧)

<https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/activity/extracurricular.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
教 育 学 部	学校教育教員養成課程	535,800 円	282,000 円	円	
経 済 学 部	経 済 学 科	535,800 円	282,000 円	円	
システム工学部	システム工学科	535,800 円	282,000 円	円	
観 光 学 部	観 光 学 科	535,800 円	282,000 円	円	
社会インフォマティクス学類		535,800 円	282,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ・新入生や在学生対象の学年ごとのガイダンスにおける履修指導 ・G P Aを活用した成績不振者等への修学履修相談の実施 ・キャンパスライフ・健康支援センターキャンパスライフ支援部門を窓口、関係部局が連携して特別に支援が必要な学生に対する修学支援を実施 ・オフィスアワーの設定やネットワークを利用した学習相談システム、総合相談窓口など、複数の方法により学生が相談しやすい環境を整備 ・チューターや指導教員による留学生への指導・助言、アドバイス 等
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリアセンターにおいて、学内企業説明会・業界研究セミナー・就職ガイダンス・特別講座など、各種キャリア支援行事の運営、求人票紹介、就職相談、進路指導、エントリーシートの添削、模擬面接などのキャリアカウンセリング（個人指導）、キャリア教育・インターンシップに関するサポートを実施している。 ○大学のホームページ：「和歌山大学キャリアセンター」より https://www.wakayama-u.ac.jp/career/
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) キャンパスライフ・健康支援センターにおいて、医師・臨床心理士による専門的な相談体制をとる一方、全学的な連携による「総合相談窓口」を設けて教職員による相談業務も行っている。 キャンパスライフ・健康支援センター健康支援部門では、各種健康相談に加え、メンタルサポートを実施。卒業生・在学生らの自助グループ「アミーゴの会」での不登校学生とのふれあい活動は、授業を受けることが困難になった学生の修学復帰の一助となっている。 キャンパスライフ・健康支援センターキャンパスライフ支援部門では、身体的・精神的な障害のある学生は無論のこと、多様な学生の大学生活上の悩みに対し、その配慮

方法等について相談に乗るとともに、学部等に対し、学生からの配慮申請に基づき合理的配慮実現に取り組んでいる。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F130110109356
学校名 (〇〇大学 等)	和歌山大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	国立大学法人和歌山大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		414人	412人	439人
内 訳	第Ⅰ区分	242人	238人	
	(うち多子世帯)	(人)	(人)	
	第Ⅱ区分	94人	106人	
	(うち多子世帯)	(人)	(人)	
	第Ⅲ区分	-	52人	
	(うち多子世帯)	(人)	(人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	人	人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	-	16人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				-
合計（年間）				446人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	11人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	-	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	-	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	人	人
計	15人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	-	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	-	人	人
GPA等が下位4分の1	31人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	11人	人	人
計	37人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。